

## AD/HDという診断と心の木

～ 新たな自分と出会った男子高校生の心理療法過程 ～

### On Diagnosis of “AD/HD” and A Tree of Mind

～ A Case of a High School Boy Who Found Himself Again ～

増 澤 菜 生

Naio MASUZAWA

#### 1. はじめに

田中（2004）は「成人がAD/HDの診断を受けることは、本人の『生きにくさ』を明確にする意味があり、基本症状への対応だけでなく、自己評価に関与した二次的問題への対処が求められる」と述べている。また「語りながら埋め合わせを行うことで、健康な未来志向性を発揮していくことができる」とも述べている。

ここでは17歳という青年期に、ある事件を契機に初診に至った事例Pを呈示し、①治療過程を通過儀礼として捉えたときPの体験したこと、②AD/HDという診断名を窓にして治療を行ったことの功罪、そして③樹木画という描画表現を介したことの意味、について考察した。

AD/HDという診断名はあくまでも自己の付き合いにくい「ある部分」を外在化するために必要なキーワードであり、このキーワードを1つの窓として本人が自己発見していくプロセスを創出していくことにこそ意味があると考ええる。そしてその際、本例ではAD/HDという名前を得ることで、自分と同一化していた深い傷つきには一旦蓋をして、少しずつ自分と付き合いやすくしていく、というプロセスが編まれたと考えられるが、そのことの功罪について検討し、考察したい。

#### 2. 事例の概要

事例：P，初診時17歳10ヶ月，男子

主訴：公共機関の窓を破損した。今までも急にかつとすることがあったが、その事件後、情緒不安定。

診断：AD/HD

家族歴：会社員で単身赴任だった父，公務員の母，5歳上の姉，4歳上の兄，父方祖母の5人家族。姉，兄はそれぞれ中学時代に不登校だったが，現在は独立して遠方に別居している。父方祖父はAが小1のとき病死。父方祖母は家の真ん中の部屋におり，周囲への干渉が過多で，些細なことにも激昂しやすい傾向をもつ。父方叔父も短気で激昂しやすく，仕事を転々としている。

生育歴・現病歴：胎児期，胎動が激しかった。生後も良く動き，良く笑う赤ん坊だった。言語発達，運動発達の遅れはない。幼少時，迷子になって見つかった後もケロッとしていることが多かった。母が仕事をしていたため，2歳より保育園に入園したが，他児を叩いたり噛んだりしては保育士さんに叱責されていた。家では，主な養育者である祖母から「また青あざを作りたいか？」と脅し文句を言われては叩かれることも多かったという。しかし，祖母が横暴であったことは最近になって両親が知ったという。小学校1年時では「知識が豊富で筋の通った話ができる」「生き物や学校で働く人たちにも強い関心を持っている」との褒め言葉も貰ったが，忘れ物，授業中の立ち歩きやおしゃべりが多く，他児と上手く行かず，有名だったという。その後も

概ね問題児として扱われ、Aには良い思い出がなく、5、6年になって先生のことを「先公」と呼び捨てるようになったという。母親は学校から連絡がなく実態を知らなかったため、相談機関には連れて行かなかった。中学時代は丁寧に話を聞いて理解を示してくれる教師が一人いたが、殆どの先生に問題児として扱われた。またしょっちゅう下痢をしたという。友人には恵まれ、何人かの親友ができた。Aはこの頃、新聞のAD/HDの特集記事を見て自分に当てはまると思い、周囲の人に伝えてみた。友人は大いに賛同したが、親や教師は取り合わなかったと言う。

高校入学後すぐ、皆に評判の悪い教師に些細なことで反発し、先生に「なに！」とすごまれた拍子に、その教師の胸ぐらをつかんでしまったため、停学となった。高校1年のときは担任と養護教諭が話をよく聞いてくれ何とか落ち着いていたが、高2になってその先生たちが転勤してしまった。Aはトラブルを避けるために本人なりの対処行動を発揮していたが、教師にはそれらが却って叱責の対象となった。すなわち高校2年時の秋、学校で些細なことで教師に説教され「暴言を吐くまい」と押し黙っていたら怒鳴られ、「頭を冷やしてきます」と廊下に出たら「どうしようもない奴」と罵られ、「人に当たるまい」とロッカーを蹴ったら、それをまた別の教師に叱責され、結局学校を飛び出す、等のトラブルが何度かあった。X年、高3の5月、習い始めたジャズピアノのレッスンを辞めるか否か葛藤していた。

「練習がつらくて辞めたい。オレは何も続かない。辞めれば先生ははっきりするだろうな。オレって何なんだ？」と母親に話していた際、「小学校のとき問題児扱いされたこと、自分が濡れ衣で怒られたこと」を思いだし、急にその当時の怒りが蘇った。翌日、ピアノのレッスンに行く予定で外出したが帰宅せず、夜中に公共施設の設備を破損した。高校からは退学勧告を受け、自宅待機していたが、次第に友人宅に入り浸り不眠傾向になった、とのことで、X年5月某日、母のみ来談され、数日後、Aが受診した。初診時現症：ピアスに茶髪で、人を信用しないぞ、という投げやりな構えが見える。貧乏ゆすりが見られる。幻覚妄想や思路障害、自生思考や感覚過敏は認められない。薬物歴もない。事件後から不眠が認められ、気分の変わりやすさを訴えるが、いわゆる躁状態に見られる誇大観念や観念奔逸や多弁多動も認められない。もともと夜になると過激な考えになりがちで、昼間になると現実的な考え方になると言う。たまに頭が真っ白になると言う。事件当

日は冷静だったとAは述懐するが、事件前後に軽躁状態もしくは解離状態の合併の可能性も考えられた。成人のAD/HDのWender-Utahスケールで244満点中166点と高得点で成人AD/HDの平均を大きく上回った。また親につけてもらった子ども時代のAD/HDチェックリストでも30点満点中20点でカットオフポイントを上回った。一方、Young Mania Scaleでは不眠以外は該当しなかった。描画①バウム(写真1)では、紙を前にした途端、ほぼ一筆書きのように描き、実が一つであった。



写真1

「これじゃあ、しっかり立ってねえな。・・・手みたくにも見える」<そうね。何かを掴み取ろうとしているところかもしれないね>と話し合った。経過途中、描画、主にバウムを度々描いたが、それが自己を客観的に把握する一つの指標となり得たと考えられる。この日、筆者からは「まだ確定的なことは言えないが、おそらくAD/HDを持っていると思われる。(AD/HDの脳の仕組みを図を描いて説明)そのことを周囲に理解されなくてトラブルが続いてきたことによる複雑な感情などが今回の事件の遠因であろう。そして今回の事件のショックも絡み合っている現在の不安定な状態になっていると思われる。軽躁状態と解離状態もある可能性がある。まずよく眠ることが大切。生活上のいくつかの約束をして、薬で神経の興奮をカバーしながら、少しずつdrive your AD/HDの方法と一緒に話し合っていこう」と伝えた。Pは薬物療法は「外からコントロールされる感じがして嫌だ」と頑固に拒否したが、AD/HDを持っているという説明に対しては、「ずっ

とまわりと違うと感じていた。うすうす思っていたことを指摘され、ほっとした」とのことであった。高校から退学を勧められており、筆者から高校へ「AD/HDを持っていることを周囲に分られないで否定的に見られてきた。そのことへの恨みがあるきっかけで噴出したが、これから自分の特性と取り組んでいこうとしているところなので、どうかもう少し見守っていてほしい。この年齢では所属場所があることがとても重要」と手紙を書いた。しかし結局、Pは高校を退学した。

検査結果：脳波検査、頭部MRIでは異常なし。認知機能検査ではWAIS-RでFIQ95,VIQ96,PIQ94で数唱、算数、理解、積木、組合せが良く、知識、単語、符号が評価点6と落ち込みが見られた。心理検査では、YGTでB`型であり、鬱々とした沈滞気分と自尊心や積極性が混在する複雑で不安定な心境。TPIでは全ての尺度が通常圏内に治まっております特筆すべきことはない。SCTでは「私はよく人から問題児と言われます。昔はむかついていたけど、最近はどうでもよくなりました」「人々は全く信用できません」とあった。Ror.では反応数11と平均よりかなり少なかったが、情緒刺激の強いカードで認知がゆがみ、論理的思考がゆるむ特徴、思いこみの強さが見られた。また人に見えやすいカードで「銅像」「擬人化した動物」(VIIカードで「表情のないハチ系の妖精」など)を見ており、人に傷つけられてきた体験からか、人との情緒的な関わりを遠ざけようとする傾向が見られた。バウムでは描画②リンゴの木(写真2)と描画③パインアップル(写真3)を描いた。リンゴは木のサイズは普通であるが、樹冠の中に実が3個あり、その外に1個だけはみ出すよ

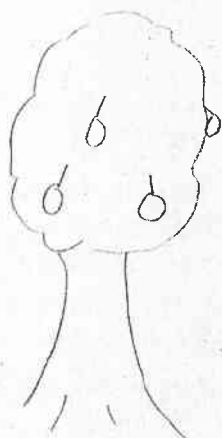


写真2



写真3

うに描かれている。Ror後のパインアップルは、短い茎の上に実が一つあるだけの奇妙な描画である。あまり対象と関わらないことで表面的には安定を保っているが、内面の深いところに他者と共有できない奇妙な世界があると推測される、との報告であった。治療構造：1回30分、当初は毎週、つぎに2週間に1回、最後のほうは必要時に行った。#40で姉面接、#10と#54で父面接、#67でガールフレンド面接、母面接51回(うち同伴来院25回)、本人面接46回、4年間に全部で74回行った。

### 3. 面接経過

#### 1期#1(X/5/28)～#21(12/24)：

#1でインテーク。#2では<行動に移す前にすべきことを書き出して優先順位をつけること、睡眠時間、帰宅時間を守ること、使うお金の範囲>の約束を話し合った。テスターによる心理検査。#3(7/2)ではボクシングジムに通うようになった。カラオケボックスで壁に八つ当たりしてしまったと言い、「高校は結局追い出したじゃないか、と恨みがあるみたい。これ以上になるとまずいから、走ったりボクシングしたりして発散しないと、と思って」<工夫しているんだね>筆者からAD/HDに関する本のコピーを渡したが、しばらくは目を通さなかった。

#4で「最近まで自分は多少ハイだった。約束は守っている。たまに民間人をぶちのめしたくなる。今は『これがAD/HDか』と思うと落ち着く。不眠傾向のときに熱くなることが多いみたい。だんだん合点がいくようになった」母親面接では「本人自らAD/HDについて学習しようと先生のとてくれたコピーを読んでいる。ジムでトレーナーに掃除を褒められ喜んでいた」

#5(7/16)「ボクシングは続けている。睡眠とらなかったり、疲れたりすると切れやすくなりますよね。週の後半に疲れがたまるので、遊びすぎないようにしないと。誘われるとつい遊んでしまう」

#8(7/23) 母親面接「先週は高校への恨みをいっぱい話した」#9(8/6) 母親面接「先週、食中毒で入院した。父親が、単身赴任が終わって戻ってきた」

#10(8/13) 描画④バウム「保護観察官がつくことになった。・・・あの事件のときのことは前の晩からそうしようと思っていて、いつもなら翌朝『オレって何を考えていたんだ。派手だな』と思うのに、あの日は朝も今夜決行する、と思って準備していた。とても冷静だった。だから躁状態でやったのではな

いと思う。もっと狂っていたんだと思う。本当は今でも高校をぶっ殺してやりたい」と語った。バウムでは当初より大分落ち着いているが、内面は怒りが渦巻いているようであった。この日、父母が来院したため、検査結果と見立てを伝えた。父の承認が大事な時期なので関わりを増やしてほしいとお伝えする。

#9(8/23)「ボクシングは行けないといらつく」<まじめなんだね>「うん。父親は『抑えて抑えて』とばかり言うのでいやだ。得られたはずのものが得られなかったと思うと落ち着かない。それを忘れるために結局ウロウロしてしまう」と語った。

#10(8/29)「高卒の資格が欲しいので通信高校にしようかと思う」と話した。母親面接「父親が学校に話しに言ってくれて、年内に退学の方になった」

#11(9/4) 保護観察官、保護司も同席し、半年間の保護観察期間のフォローの仕方について話し合う。

#12(9/10) 夢①を報告した。「北海道みたいな広いところを走っていたら、ハチが来て、途中、そのハチが人になる。それはアイドルの女の子で、そいつがクレーンに乗って仮設トイレを壊していて、その子が教室の後ろで『マーカーみたいなペンを貸して』言うので、オレが『何するの?』と聞くと、『私は悪いことをしたから、ひまわりと空の絵を描くの』と言っていて、おれは『いい奴だなあ』と思って一緒にその絵を描いてあげた夢」連想を問うと「小2の頃、小5の連中が育てていたひまわりをなぎ倒して種を食っていたら怒られたことがあった」と語った。ThはPの中の罪悪感と「日の方を向いて歩いていきたい」という願いを感じた。

描画 ひまわり(写真4)

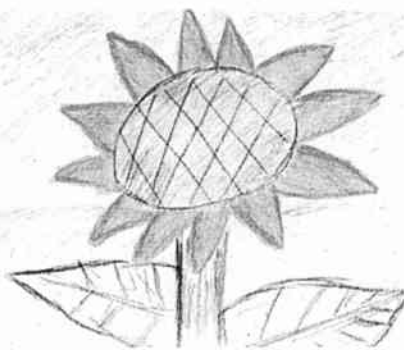


写真4

母親面接「Aが猫を飼ったが、その猫が暴れん坊と一緒に寝られず、父親は保健所に捨ててこい、と言

う。4週くらい飼ったが、どうしたものか」<猫と自分を重ねているかも、皆で大切に飼って見たらどうか?接し方の本があります。猫は犬のように叱っても舐めにならない。やってほしい行動をしたとき褒めてこそ暴れん坊でなくなるんですよ>

#13(9/17) 母親面接「本人から伝言。『友人と電話しているとき、それに集中していて周囲が見えないらしいことに気づいた。電話を切るとパッと周囲が急に見えたような感じがする。これもAD/HDの特徴だろうか』と。予定をすぐ忘れるので、カレンダーにシールを貼ることにした」と<自分の特徴を探索して工夫しはじめていますね。とてもよいこと>

#14(10/1) 母親面接「ボクシングを休むとイライラしている。昔から休んでも休めないたち」

#15(10/8)「ボクシングでついにマウスピースを作る。だんだんリズムを補正していい感じ」と意欲的。

#16(10/22)「事件のところに聞いた音楽が今は嫌いになっている」と。<すごいショックだったんだね>「うん」

#17(11/5)「バイトを受けて落ちた。オレは臨機応変に気を遣うのは不得意らしい。コツコツ一つのことをしたほうがいいみたい。喋っていても、ついさっきのことも忘れることがある。メモることにした」

#18(11/12)「床屋でボクシングの話をしたら、そんなの辞めなさい、と言われて、すげえ腹立ってキレまいとして石になった」<そんなこと言われたくないよね。よく耐えたね>「うん、オレもそう思う」

#19(11/26)「父親とは気まずい。父親の書斎を見て気づいた。ビリヤード入門や太極拳の本、『第九を歌おう』という本も出てきた。父親も熱中してはすぐ醒めるほうだったらしい」自動車学校に入校した。

#20(12/10) 夢②「ミス高校の女性が出てきて、仲間と3人で家の食卓にいた。『オレなんてミス〇〇と家が近いんだぞ』と自慢している。『こんなに家が近いのに、親同士は何で関わりがなかったのか。関わりがあれば幼なじみという展開になったのに』と思っている。きついワイシャツの第一ボタンまではめていたので苦しくて他の部屋に行ってワイシャツを脱いだら、何か英語でメッセージの書いてあるTシャツだった」を報告した。描画⑥ RCM (Reciprocal Comic Method交互マンガ法, 山中) を作成した。物語は「やる気のなくて酒を飲んでいて人がいたが、ミス高校生に出会い、やる気が出て、服を着てきた。二人で街にお出かけ。遊園地があって、一緒に観覧車に乗った。観覧車が発車して月に着き、餅つきをした」を描いた。



#21(12/24)「ボクシングの先輩のデビュー戦を見てきた。先輩は負けたが、いい試合だった。練習でぶたれて痛かった。痛い怖い。湿疹が出来たり、11月には食中毒にもなったし、やっぱり根に持っているのが身体に出ている。辛かったから」<心の中にどこか傷ついたところがあるんだよね>「それは言える。ジムに入って健全になってきたのに何故風邪ばかり引いているんだ、と考えるとそう思った。中学や高校のときは、オレの人生、終わりだと思っていた。今は安心感がある。何度もそういう波を経験して、分ったんじゃないんですか？落ち込んだり、むかついたりを見守っている自分がある。軽いのなら大丈夫。もう一人の自分が見つかり、それが成長してきて。この頃は木を描いても、ワーッと描くと『あ、これはハイの木』と思って、落ち着くようにするし、字でもそう思っけきちんと書くようにしている」描画⑦バウム「植樹祭」(写真5)⑧バウム「枝に掴まる人」

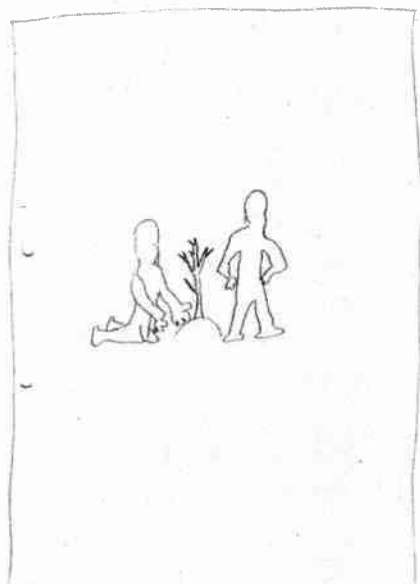


写真5

\*1期では、自分の状態をAD/HDをキーワードにして新たな視点から把握し始め、一方、心の深いところにある傷についても少しずつ表現でできるようになってきた。どうしようもない衝動はボクシングを習うことで収めようと努力した。そして自己を見守る目を自分の中に作り始めたことを描画⑦で表したものと思われた。

## 2期#22(X+1/1/7)~#47(X+2/3/24)

#22(1/7)箱庭を希望。箱庭①「左が敵、でもこの女性性は怪しい。2人は自然の摂理で死んでいて、四天王がいる。この女性も自己中ばい。高見の見物。トンネルが区切り。題は『意味がないと偽って本当はある』。茂った木の下あたりにいたい。そこで生まれよう」と説明した。母親は自動車学校でキレなければいいが、と心配していたが、Aは「友だちから情報をもらっているのだから、嫌な教官には当たらないようにしているから大丈夫」と。

#23(1/21)「外国の女性シンガーBもAD/HDなんだった。紙に優先順位を書くようにすると安心する」1/27に母親より電話があり、東京にその外国の女性シンガーが来るのでサイン会に行ってくる、と言うのが心配だとのこと。行く前と帰ってきてからの2回、バウムを描いてもらおうようお願いする。

描画⑨バウム「ジャックの豆ではない木」(写真6)  
⑩バウム「大きく元気になってちょ」(写真7)を描いて、次の面接に持ってきた。

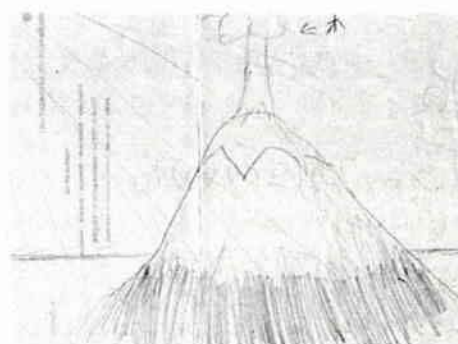


写真6

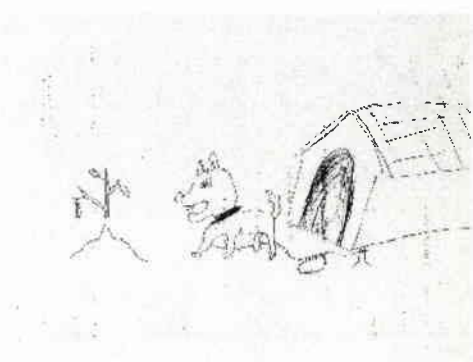


写真7

#24(2/4) 描画⑨、⑩を見て「サイン会行く前と後でぜんぜん違う。行く前の木はやばいっすよ」と。

「自動車学校、あと少し。考えすぎるのは短気になるし、短気は損気だし」

#25(2/18)「先週、免許を取った。AD/HDは運転は要注意だね。高校は定時制や通信制か迷っている」

描画⑪バウム「盆栽の松」



写真8

#26(3/11)「進路は通信制に決めた」描画⑫バウム「マリモ」  
「マリモは1つずつ解決していこう、という前向きな気持ち。バイトは落ちているし、失恋もした」

#27(3/26)「保護観察が外れた。泣きそうだった。ガソリンスタンドのバイトを始めた」

#28(4/2)「バイトは続けている」描画⑬バウム「屋根を直している家の左に木が2本、右に牛がいる」



写真9

母親面接「バイトでタンクのキャップを何回か閉め忘れたと。父親が『なんだ、それじゃクビだろ』と言ったら、さっと顔色が変わった。次の日はキャップを忘れなかったと」

#29(4/22)「またしても腸炎。発熱してもバイトに行った」描画⑭バウム「双葉」柔らかな緑の小さい

双葉が地面から生えだしている。

#30(5/27)「バイトは最近ミスをしていない」夢③

「ガソリンスタンドで夜勤。何時までだか分らず、『いつまでやっているのかなあ』と思うと『休みに入れ』と言われ、休みに入ると今度は『いつまで休んでいいのかな』とまた心配。家の猫が走って出たところで車に引かれ、生きていたけれど脚を引かれていてかわいそうだった」という夢を報告した。

#31(6/3)「ジムに行かないと何か壊したくなる。AD/HDだから待つのが大変なんだよな」母親面接「祖母がワナワナと怒る方で、小さい頃だいたい当たられていたらしい。それが影響していると思う。父親とはよい関係になった」

#32(6/17)「バイクの免許を取りに行っている」

#33(7/1) 母親面接「職場の上司の言葉にもむかづいて、職場では我慢するが、帰ると母親にまくしたてる。後から『あのとき、オレは寝不足だった』と反省する」

#34(7/29)「バイクの免許を取ったら虚脱感。終わったら喜ばず、途方に暮れる感じ」＜何かをしていないと落ち着かないんだね＞

#35(8/26)「高校で彼女が出来た。父親と飲みに行ったら、すごい面白かった。今までのオレは心の底に恨みがあって、それが酒を飲むと出てきていたんだね。今は心の底に何もないから、細かいことが気にならなくなってきた」描画⑮バウム「木とタンポポと船。まだ万景峰号がいるから、気をつけないと」

#36(9/18)「今日から病院代は自分持ち。ジムは辞



写真10

めた。バイト代で学校の修理費を親に返している。時間が掛かってもいいよね。もう少ししたら彼女にAD/HDの説明をしてほしい」

#37(10/7) 母親面接「姑が脳梗塞で倒れてこちらを振り回す。私や子どもの前では凄い。ずっとそういう人。実家の私の母親も私の話は聞かない人で、こちらを攻撃。何を言ってくるか分からない人だった。私は早くから親を頼っていなかった。だから娘が頼ってくると、いつまで?と言いたくなる。私の母も小6で実母が亡くなって継母が来たので、甘える体験がなかったのだと思う。でもその母に『もっと頑張れ』と言われ続けてきたが、最近ようやく『頑張れと言われたくない』と言えるようになった」との話が聞かれた。

#38(10/27)「彼女が感情の振幅が激しい人でなかなか疲れる」描画⑮バウム「木と双葉と亀」木の左側に左に向かう亀、右に双葉の出た木の苗。

#39(10/28)の頃より自分の部屋にハムスターを飼って世話をし始めたという。

#40(11/11)「彼女が泣くのも怖くなくなってきた、揺れになれてきたかも。睡眠時間もとっているし、仕事もこけることがない」姉が来院。姉は「弟より母のほうが心配」と。

#41(12/9) 母親面接「彼女が出来てから相手が信じ切れない不安があるらしい。でも『不安で仕方ないが、いつかこの不安になれるという希望を持っているんだ』と話していた」

#42(12/18)「疲れると、ふっと頭が白くなる。新鮮な作業のときは大丈夫。最近、オレは疲れていると分かるようになった」

#43(X+2/1/13)「彼女は自分の気持ちが分からない人。自分は自分の気持ちを考えるのは得意みたい」母親面接「今日することをメモして行って、1つつ片付けていき、1つつスッキリすると言っていた」

#44(2/10)「短大に合格した。彼女がバイトを始めたらオレは不安になったらしく、情緒不安定になった」

#45(2/24) 母親面接「バレンタインのお返しをするとかケーキ作りの練習をしている」

#46(3/3)「親類みたいに仲良しの友達が髄膜炎で入院。重症らしいので病院で泣いた」あとで回復する。

#48(3/24)「彼女は反省しないので、トラウマがあると言っても解決する力がない」事件直前の写真、昔の写真を持ってきて見せてくれる。「だいたいやばかったでしょ?今は生き返ったよね?」

\*2期は自動車学校に通い、衝動コントロールを学んでいるようであった。描画から自分の状態を見たり、心構えを確かめたりしているように思えた。#35あたりから女友達が出来、バウムを描いてもらおうと木のそばにタンポポなどが描かれ、人への信頼を回復しつつあるように見えた。しかしまだ不気味なものが潜んでいることは自覚され、同時に自分の心の底に恨みがあつたから、それが衝動と結びつきカッとしていたんだ、ということに気づいていき、新たな自分との出会いを確認しているようであった。

### 3期#49(X+2/4/21)~#66(X+3/3/29) 一人暮らしへ

#49(4/21)「学校は人が一杯いて緊張感がある。朝が早いこと、先生たちが怒ること、疲れる。彼女に当たってしまう」<お風呂にゆっくり入ろう。早く寝る。刺激を遮断する時間を持つ>と伝え、睡眠リズム表に記録するように伝えて渡す。母親面接「大学の授業を休むと留年になるとのことで、大学を辞めなければならないかと心配している」

#50(4/27) 母親面接「彼女とディズニーランドに行ってからよかった。高校のとき大好きだった1、2年時の担任に会いたくなって電話したら、先生も喜んでくれた」過去の記憶の中の良かったことにも目が向けられるようになってきた。

#51(5/11)「自分でペースを保てるようになってきた。資格がほしいので大学は頑張る」

#52(5/24) 描画⑯バウム「木と犬」(写真11)では「木が川の底から生えてきていて周りには水草が水流を防ごうと生えている。カルガモが見ている。犬は吠えている」

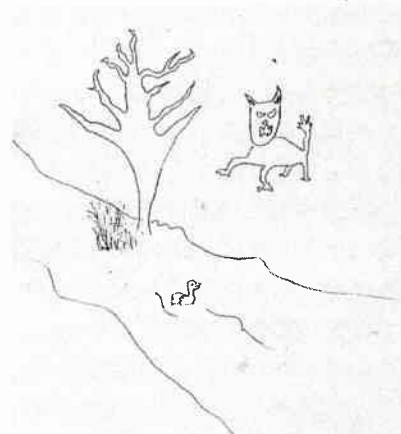


写真11

「家にいると刺激を遮断されてしまって、そうすると落ち着かない。人の中にいると刺激が入ってきて、そうすると落ち着く。今のオレは自分と向き合えない」ThはPの心の底にある傷つきについて、まだ扱う時期ではないと感じたが、そのままにしておいてはいけないという危機感も持った。

#53(5/25) 母親面接「大学は辞めるのかと思っていたが、辞めずに復活した」

#54(6/22) 父親と来院。「ラーメン屋のバイトをしている。大学の先生に『お前ら、虫けらだ』と言われて、いらっとして冗談で返したら先生に叩かれて思わず胸ぐらを掴んでしまった。そこで留まったがAD/HDが表面に出たんですね」<小さい頃に言われた言葉と重なって聞こえたかもしれないね>「ふーん。いろいろ言われてきたからなあ」

父親面接「ずっと母親に任せっきりだった。自分も家内と一緒に対応を考えようと思って。だいぶ自分で自分の状態をはかれるようになってきたと思うが」<父からの承認が何より大切。ただまだ心配なところがあるので、よく声かけしてあげて>

#55(6/29) 母親面接「『バイトしたいし、大学あるし、彼女とも、友達とも遊びたい。このままだと病気になる』と言って自分で調節しようとしている」

#56(7/27) 母親面接「ラーメン屋のバイトを辞めた。夏休みはガソリンスタンドと整備のバイト」

#57(8/31) 母親面接「1日10時間のスタンドと週4回の整備工場、バイトをやり通した。疲れると感覚が過敏になるようだ、と自分で言っていた」

#59(10/5) 母親面接「前期はクリアできた。授業が面白いと言っている」

#60(10/21) 4ヶ月ぶりに来院。「頑張りすぎる自分がいるのが怖い。ハムスターを飼っている。とてもかわいくて癒される」

#62(12/6)「最近、疲れを取っている時期。でも家にばかり居ても何かがたまってくる。10月くらいから、手帳にやったことを書いている。昔のオレは頑張りすぎだった。全部やろうとするから駄目なんであって、しなくていいや、と思えばいいですね。入学した時からずっと頭痛、喉が痛かった。熱が上下して。きっとサインだったんだな」

#63(X+3/1/25) 母親面接「1月に入って企業説明会、会社訪問にすごい緊張して行った。レポートをやり遂げて、その後友だちと遊んで外泊、そして車の事故。幸い双方怪我は無かったが。自動車はいらないから学校の近くにアパートを借りたい、と。携帯電話の料金も自分の口座から落とすことにして、

5,000円くらいに納めている」

#64(2/15) 母親面接「事故のことは日にちが経てば自分の中で整理するんだなあと思った。昨日しみじみと『休みになると、びっしり計画をいれるんだよね。それがコントロールできれば』と。一人暮らしについては、今まで母親の私に話して気持ちを落ち着けていたが大丈夫か？もう一つは火の始末が心配」  
#65(3/8)「あさってから一人暮らし。今はワクワクしている」

#66(3/29) 母親面接「引っ越し先の部屋のレイアウトに凝っている。親父の字がいい、と言うので、火の元確認の紙をお父さんに書いて貰った。コンビニのバイトを決めてきた」

\* 3期は短大に入学してから、新しい環境に慣れ、いくつかバイトを経験して一人暮らしを始めるまでの時期。社会に再び参入しようとする、様々な場で多くの人と接して刺激を受ける。その刺激により賦活され、無意識の奔流に流され衝動的にふるまってしまうようになる自分を描画で表し、「大学の先生とのトラブル」で実際体験した。2期の#35で心に恨みがなくなった、と述べたPだが、まだ手つかずの思いがあると思われた。懸念材料は残しつつ、一人暮らしを見守ることとした。

#### 第4期 (#67(5/17)~#74(X+4/3/7)) 就職へ

#67(5/17) ガールフレンド面接「彼が怒ったときの対応をどうしたらよいか？私も怒りっぽい。疲れているとき、態度が悪くなってしまう」<ルールブックを作ってみよう>と提案し、『キレないための上手な怒り方』(1995)という本をお貸しした。『『どうしてそういう言い方するの？』と言ってケンカになる』<『どうして何々するの？』でなく、『私はそれは言わないでほしい、こういう風に言ってほしい』とI wantの言い方で言ってみるとよいよ>と伝える。彼女もPと共感できるところが多くあり、素直でしっかりした人であった。

#68(6/1) 母親面接「就職試験があってイライラして、Pはコンビニの店長とぶつかり、とっくみあいのケンカをしたらしい。『自分なりに考えながら頑張ってきたのになあ。他人に触られたくないところを触られるとパーンと反応するようになってみたい。自分が相手を挑発してしまっているんだよね』と言っていた」

#69(7/19) 母親面接「会社に就職が決まった」

#70(9/27) 母親面接「夏休みに1ヶ月半家に居た。」



いろいろ話して帰った」

#71(12/13) 9ヶ月ぶり「派遣会社のバイトで引越しの手伝いをしている。2週間周期くらいで気分の波がある。薬が必要なほどではない。落ち込みだと10時間睡眠。ハイなときは分刻みのスケジュール。1, 2時間の勉強で成績はよい。気づいたこととしては一人生活を始めたら通学時間のない分、時間が多く、刺激が少ないので自分のスケジュール通りに動けた。でもそのスケジュールが疲れる。落ちているときは追い立てられて辛いし、上がっているときは数々の課題をこなしている自分に酔いしれる、というか。常に向上心と具体的な目標を作ってやらないと満足できないんです」

#72(X+4/3/7)「もうすぐ卒業式。先生に借りた本で怒りのコントロールのテクニックがだいぶ身に付いてきた。会社に遠くないアパートを決めて一昨日引越した。彼女と暮らす。秋に結婚の予定。来年あたり式をあげたい」と生活費の収支目標について説明してくれる。

#73(3/28) 母親面接「国家試験があつて、今日初出勤」その後、母から電話あり、「勤め先の先輩にひどいことを言われて腹が立つが何とか我慢していると電話があつた。大丈夫か」

#74(6/6)「仕事はハードだけど、『一難去った』感があります。連休前後が精神的に大変だった。自慢したいことは、3冊ノートがあつて、1冊は持ち歩いて何でも書くことにしている。『あの車、あとで洗ってくれ』と言われたら、すぐメモする。家に帰るとノート2冊あつて、一つはふつうの日記、一つは『ミス撲滅ノート』。左側に今日のミスを書いて、右側にどう解決するか、と書く。そして朝起きて、よし!と確認。ミスしたときに、また新たな情報を貰った、直せるところを教えて貰った、弱点を教えて貰った、と考えを変える。国家試験の勉強のまとめノートを作るときに、まとめる力がついた。勉強はどれだけ『分らないところがどこか』が分るか、だ。『当たっていた』ということ喜びにしていはいけない。『また間違いを見つけた』というのを喜びにする。まとめノートを『いかに早く作るか』というのも大切。必要以上に美しく作ることはない。1日って24時間しかないから、それを如何にフルに使うかだ、とギターをやっていて学んだ。仕事については、オレはいい性格してて『どこへ行っても同じだろう』というのがあるので『辞めてやる』ということはない。はじめ、先輩としゃべれなくて気まずい感じだったが、だんだん輪に入って行った。

先輩がはっきり言うので落ち込んでいたが、他の子も言われていて、先輩によって好みもあるんだなあと思ったら一寸ましになった。昨日は自損事故を起こした車を同僚と一緒に誘導して助けてあげた」とのこと。治療の総括をしている印象だった。営業用の名刺をいただいた。

\*この時期は母親に代わり彼女が来談した。卒業、国試、就職と社会に再び参入した。『ミス撲滅ノート』という、メモ帳にその日にしたミスとその改善点を書き出す方法を編み出し、家庭を築く準備も整ったところで治療終了となった。

#### 4. 考察

##### ① 通過儀礼として見たPの治療過程

Van Gennep, A. は通過儀礼を分離、過渡、統合の3段階に分類している。太田(2000)は、この3段階を次のように説明している。すなわち、「通過儀礼の参入者は所属集団から分離し孤立することで過渡に入り、所属集団外の周縁で何ら秩序に属さない曖昧性を帯びた状態になる。そして参入者はこの過渡期を通過することで以前より高次の地位に就くという形で社会構造の中に再統合されていく」。ここでPは、器物の破壊によって、まさに所属集団から分離させられた。高校を中退し、保護観察期間となったが、その期間の前後を含め、Pが紆余曲折を経て就職に至るまでが治療期間と重なった。過渡においてPが体験したものは何だっただろうか?

一つは、Pの自己像の変容であつたと考えられる。バウム1で描いた炎のような木、Pは「しっかり立っていない」と述べたが、それがPの自己像であつた。それはまた高校の先生の言葉「どうしようもない奴」で代表される、幼少期から現在まで周囲から度々貼られたレッテルでもあつた。しかしこの時、Pはまた別の見方をする力があり、「手みたいにも見える」と述べた。それに対しThが「何かを掴み取ろうとしているところかもしれないね」と応じたが、「心の窓を開いて別の自己像を掴み取る」ことこそが治療の主目標であつたと思われる。そして外から規制されて衝動を抑圧するのではなく、「自分の衝動を主体的に使いこなすこと」をある程度可能にすることもあつた。その過程に考察②に述べるAD/HDという窓と、考察③に述べるバウムを中心とした描画が役立った。

もう一つ、過渡期にPが体験したことは、父母との関係性の変化、母からの分離と父の世界への参入

であったと言えよう。Pは幼少期は母を求める傾向も少なかったが、小学校5、6年生になった頃から学校では先生を「先公」と呼び、それまでずっと周囲から不当に扱われてきたことへの思いを、家に帰っては母親に凄い勢いで語ることで、自分を何とか保っていたと思われる。「乳幼児期に選択的愛着関係は成立するが、選択性が低く対象が拡散しがちで、学童後期に入ると母親の存在を強く意識し始め、愛着関係が深まり心理的に依存するようになる」という傾向は、田中（2006）が言うようにAD/HDを持つ子どもにしばしば見られる。しかし学童期後期は母なるものに対するアンビバレンスも強まる。Pはその母子の緊密な結びつきを「破り」、父の世界に渡る時期に至ったと考えられる。実際、経過途中の#7で父親が単身赴任から帰ってきた。#9ではPから「父親とぶつかること」が苦々しく話されたが、#10で父親はPの学校に事件のことで話に行ってくれ、年内に退学することが決まる。#11から#27まで保護観察官と保護司がついたが、彼らは法のもと、Pに行動上は厳しくルールを示しつつも感情に対しては受容的に接してくれた。彼らは社会の中の父的な存在であり、現実の父親のイメージの変容に一役買ったと思われる。Pはしばらく父親を忌避するか、父親と衝突するかであったが、#19で「父親の書斎を見て気づいたが、父親も熱中してからすぐ醒める」と自分との類似点を語った。齊藤（2001）が論じたように、これは分身性（双子性）twinship体験（Kohut, H. 1971, 1984）と言えよう。これを契機に父親を等身大の人間として見るができるようになったように思われ、#31では母親から「Pが父親とだいぶよい関係になったこと」が報告され、#35ではPが父親と酒を酌み交わすまでに変化した。そして一人暮らしを始める#66では「火の元確認の字を父親に書いて欲しい」と述べたことが母から語られた。Pが母の世界から分離し父なるものを自分の心に統合していったものと考えられた。齊藤（2001）は「同類感覚」でとらえる余地のある父親から青年自身が、疲弊した自我が採択できるだけのものを見つけ出し、そのかけ値なしの実像を参照している。そこから自我の自立機能の現実的修復が進められていく」と述べているが、まさにそのような体験をしたものと思われる。

## ② AD/HDという窓を得たことの功罪

初診時、AD/HDの存在も念頭において診察したThに、Pは自ら「昔、AD/HDの新聞記事を見て、

これ、オレだ」と思った、という話をした。そこでThはまずAD/HDを窓としてPが自己の特性を探っていけばいいと考えた。

田中（2004）は成人にあるAD/HDを診断するための手順は、「行動評価スケールなどによるチェックと、質問内容や質問順序が統一されている構造化面接、家族同席面接、心理発達検査や注意力・衝動性の検査などを経て、関係者によるチーム討論により、見立てを伝え、今後の治療計画を立てる、というもので、基本的にはAD/HDをもつ子どもの診断手順と変わらない」と述べている。成人にあるAD/HDの診断基準としては、Utah基準が有名であるが、これはWender, P.H. (1981) が作成したもので「小児期の特徴としてDSM-IVを満たすか、それに準じた特徴をもち、成人期の特徴として①持続する運動過多、②注意集中困難を必ず満たし、③感情の易変性、④まとまらない・課題を達成できない、⑤癩癪もち・爆発しやすい、⑥過剰な情動反応、⑦衝動的、の5つのうち2つ以上を満たすこと」で診断される。Wender, P.H. はまた、親が回想して記入する小児行動評価尺度や自記式の成人AD/HD質問紙を発表した（1993）。本例では、両親用小児行動評価表で20点であり、12点というカットオフポイントを上回った。また自記式の質問紙でもAD/HD成人の平均 $62.2 \pm 14.6$ を大きく上回る高得点であった。そのほか、生育歴の聴取、心理発達検査、診察時の観察、家族の話などから、AD/HDの混合型を持って生きてきたと診断した。そこに、幼児期からの祖母や周囲の環境から受けた心的外傷が加わり、症状を修飾していったと考えられる。さらに肯定的な担任や養護教諭の離任により孤独感が増した上で、習い事の葛藤、高校での教師との葛藤があって、解離状態となって事件を起こしたのではないかと推測する。Pは「しっかり意識して計画していた。もっとうざって狂っていた」と回想しているが、意識の変容状態があった可能性は高い。

本例では、AD/HDという窓を通して自己を観察し適応方法を探索した分、他の部分、ことに情緒的な傷つきに関してワークスルーすることが積み残されていると考えられる。しかし一方で、Pにとって過去の情緒的体験は触れがたい部分もあると思われ、まず外的な枠組みをAD/HDで与えられ、それを足がかりとして主体的に自己探索をし現実に適応の方法を探ってみて、ある程度、実効感を得られた後、初めて情緒的な傷つきに手をつけることができるのではないかとと思われる。

Pは薬物療法については勧めても拒否した。また当初、Thの提案する生活の基本ルールの遵守や「やることリスト」の記載などもさぼりがちであったが、#3でThが渡したAD/HDの攻略法のコピーを自分から読み始め、次第に行動を検証し、自己理解を進めていった。ボクシングジムに通い始めたり、#19からは自動車免許、バイク免許を取得したが、これらはまさにdrive control（衝動コントロール）の練習であった。次第に自分からAD/HD症状への対処法を提案していくようになる。#28ではバイト先でタンクのキャップをし忘れまいとして手の甲に「キャップ」と書く等の工夫をし、#31で「AD/HDだから待つのが大変なんだ」と自分に説明して我慢し、「寝不足だとAD/HDがてきめん出る」と睡眠を調節しようと努力する傾向が出てきた。このようにAD/HDを窓として客観自我が育ち、自分の衝動性をコントロールできるようになってきた。#42で「やることリスト」を活用している様子が見られ、#49から大学に入学したが、#54で正義感から大学の先生の胸ぐらを掴み、#68ではバイト先の店長と喧嘩したが、途中で止めることが出来た。そして「あるところに触れられると、自分から挑発してしまう」と気づけた。そして#65から一人暮らしを始め、#73の後には会社に就職、「ミス撲滅ノート」を提案し、思考と行動を内省して修正することを続けている。その後も仕事を継続し、彼女と結婚し安定して生活している。このようにAD/HDを窓として主体的な衝動コントロール獲得の過程は、自分の生活全体を律して組み立てていく自立の過程につながっている。

### ③ 描画・夢などイメージの変遷を通して

本過程では、何度か「実のなる木の絵を書いてください」と言ってバウムを描いてもらった。また自由画やRCM、箱庭も織り交ぜて面接を行った。バウムでは教示とはかけ離れたものもあったが、そのときのPの状態またはPの希望を明瞭に示した表現になっていたと思われる。

中鹿（2004）は、青木（1986）のバウムテストについての言説を「場面依存性が高い、すなわち対人状況への反応性も計っている。それは対話そのもの」と紹介し、広汎性発達障害の特徴を論じている。

本例では描画は、a. バウムの変化から自己像の変遷を計ることに役立った。b. バウムの状態からそのとき衝動コントロールの状態を把握する手段として役立った。c. バウムおよびRCM、箱庭、夢が治療関係をとらえる指標にもなり得た。d. 一貫

して描画に表れる特徴から、Pの発達特性を知ることが出来た。

a. 考察①で述べたように、描画①バウムで「立っていない」「どうしようもない自分」という自己イメージから、描画②バウムでは「直立しており、表面的には一寸枠を出るだけで周囲に合わせられる」自分を表し、ロールシャッハ後の描画③バウムでは「内面深くには他者と共感できない奇妙な世界がある自分」を表した。描画④では描画②に似た、しかし枠内に実が収まっている木を描いた。#12の描画⑤「ひまわり」と夢の語りで、Pの深い罪悪感と再生を誓う姿が感じられ、#21の描画⑦植樹祭では描画①で接地していなかった木の苗が植えられ、それを見守る人がいるところから客観自我が育ってきたことが実感されているように思われた。#25の免許取得後の描画⑪では「盆栽」であり、自分の手で枝の生え方をコントロールしている姿が見える。#29の通信制高校に入学後の描画⑬の「屋根を直している家と2本の木」、#29の描画⑭「双葉」には「新生P」との新たな願いがあるのであろう。#36の彼女が出来たばかりの描画⑮では幹の太い樹冠がこんもり茂った木のふもとにタンポポが描かれ、万景峰号で表された脅威が遠くにありつつもホッとした印象。しかし#52短大に入学後、環境になれず落ち着かないときに描いた描画⑰では川底から生えている木を描いた。川底に根、とがった枝を持ち、叫んでいるように見える木で、流されまいと必死な様子が見て取れる。カルガモが川面でのんびり見ているが、陸では犬が怒って吠えている。いかにも人生の荒波に気を抜けない状況、川の流れに抗しながら必死に生きている自己像である。この後1ヵ月後に大学の先生と、1年後にコンビニの店長との喧嘩があったが、途中でハッと気づいて止めることも出来るようになってきており、ただ流れていた描画①の木を描いていたときとは、明らかに違う自己像を得たと考えられた。

b. 衝動コントロールの状態を如実に表した描画としては#23の後のサイン会に行く前にかいた描画⑨と行った後にかいた描画⑩があげられる。描画⑨はPが一つのことに対して衝動が高まったとき、「全体が見えがなくなる様子」や「根っこが抜けて飛んでいきそうな勢いを持っていること」が見て取れる。これをP自身が視野に収めてからサイン会に行ったことには意味があると思われる。帰ってきてからの描画⑩では盛り上がった土に植

えた木はまだ若木で、それを番犬が見張っており、「自分の衝動の番をしっかりとしなければ」という意識が認められる。この描画体験から、描画を手がかりに衝動の状態を計る方法を得たと思われる。

c. 治療関係については、#20での夢とRCMでは治療者とのポジティブな関係を示していると考えられる。自己の世界を「観覧」し、月の世界、すなわち心の世界で餅つき（心の作業）をしていることであろう。箱庭①では逆にネガティブな感情も含めて表されている。「自己中心主義者で高みの見物の女性」はThに対する陰性感情であろう。本気で治療に携わっているのか、問われている気がした。

d. Pの描いた一連のバウムを見ると、描画②④⑬⑮のように樹冠がある木では、枝の分化が全くみられず、樹冠はこんもりとしている。感情の未分化な状態を思わせる。樹冠のかかれないタイプの描画①③⑦⑨⑩などでは枝は描かれるが盆栽の松以外は葉が一枚も描かれていない。このことから感情を出すとする露にし、収めるとすると中身もよく分からなくなる等の極端な傾向が窺われた。描画⑦の植樹祭、サイン会の前の描画⑨では樹木の接地面をしっかり描いているが、これは「地に足をつけなくては」と意識的になっているときなのであろう。描画⑬のバウムでは川底ではあるが、立ち位置を意識化している様子が見られる。そのほかのバウムにはほとんど地面を描きこんでいない。一貫して、常日頃から足元をよく見る必要性が感じられる特徴であった。この根っここのところをよく見ない、ということは、衝動の不意な表出と関係があるであろう「心の中の傷」をよく見ていない、ということと関係あるかもしれない。#21で「やっぱり根に持っている」と語り、#33では母に「小さい頃に祖母にだいぶ当たられていたこと」を話したが、面接では取り上げられなかった。#35で「これまで心の底に恨みがあった。それが酒を飲むと出ていた。今は心の底に何も無い」と語ったが、その後の描画を見ると、まだ心の底に適切に触れられるのを待っている部分があるように思われてならない。治療でもう少しそこに手が届けばよかったようにも思われる。

## 5. おわりに

最初に述べたように、AD/HDという診断名を窓としてPはある面、自己の再発見を果たしたが、根っ

このところが不十分な治療であったといえる。もちろん「根っここのところに大変さを抱えている」ということに気づけたことは一つの収穫であろう。しかし実は「AD/HDがあったにせよ、なかったにせよ、厳然としてある心の傷つきに、どれだけ触れられたか、が重要な課題である」（小倉、2006）ということに改めて気づかされた。入り口はAD/HDの窓であっても、その中で行うべきことは、行動や描画に表された表現を受け取ってPと共有することであったと反省される。たとえAD/HDがあっても、治療者側がその枠組みに沿って方策を教えたりすることで留まっていたら、その診断名は意味がないと思われる。描画やさまざまな方法を使って、患児の感情をワークスルーすることが大切である。

本事例は平成16年11月20日に第92回日本小児精神神経学会で発表したものです。学会発表に際しご助言いただきました小倉清先生に心より感謝申し上げます。またさまざまなことを教えてくださったPさんとそのご家族に心より感謝申し上げます。

## 文献

- American Psychiatric Association, 1994  
Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders-IV: DSM-IV 精神障害の診断・統計マニュアル 高橋三郎・大野裕・染矢俊幸（訳）547-552
- 市橋秀夫 2004 成人におけるADD, ADHD. 精神科治療学, 19(5)
- 小倉清 2006 子どもの臨床. 岩崎学術出版社, 2006.
- 太田秀樹 2000 通過儀礼における衝動統制を獲得する過程. 箱庭療法学研究, 13(2), 59-72
- Christine Dentemaro & Rachel Kranz 1995 Straight Talk about Anger: キレないための上手な「怒り方」 ニキ・リンコ訳. 花風社
- 斉藤久美子 2001 青年の「父親」体験と自己形成—臨床的検討—. 思春期青年期精神医学, 11(1), 8-14
- 篠田晴夫, 田中康雄 2004 ADHDを有する学生への医療と連携した心理教育的特別支援. 精神科治療学, 19(5), 585-590
- 滝川一廣 2005 ADHDやLDをどう考えるか. そだちの科学, 4, 100-110
- 田中康雄 2004 成人におけるADHDの診断の鍵と限界吟味. 精神科治療学, 19(4), 457-464



中鹿彰 2004 バウムテストから見た広汎性発達障害の認知特徴. 心理臨床学研究. 21(6), 611-620  
松浦雅人, 大賀健太郎 2001 成人期のADHD. 臨床ハンドブック: 52-63. 金剛出版  
Ward, M.F., Wender, P.H., Reimherr, F.W.: The Wender Utah Rating Scale; An aid in the

retrospective diagnosis of childhood attention deficit hyperactivity disorder. American Journal of Psychiatry, 150; 885-890, 1993  
Wender, P.H.: Attention Deficit Hyperactivity Disorder in Adults. New York; Oxford University Press, 1995